

城郷高等学校 第33回 卒業証書授与式

ただいま 卒業生の皆さんに卒業証書をお渡ししました。城郷高校 第33期生の皆さん、卒業おめでとうございます。保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。突然にも、様々な制約の中で人生の選択を迫られる厳しい世の中になりました。新しいことに取り組むチャンスが減り、少ない機会でも成長すること、成果を挙げることが求められています。先日、ラジオを聴いていると、「近頃の若者は効率よく、要領よく物事をこなし、最低限の努力で良い結果を求めて、楽をしようとする」と言っているのがとても印象的でした。みなさんはこの見方をどう感じますか。

昨今では、コミュニケーション能力や社会人基礎力など、「～力」と名のつく様々な能力が謳われています。AIが発展していくことによって、なくなる仕事もあると言われていた厳しい社会の中で、力がないと人としてやっていけないと突きつけられ、私たちは「どうやって生きていけば良いのか」と漠然とした将来に対する焦りと行き場のない不安をかき立てられています。

そして、時代が変われば今度は、全く他の新しい分野・種類の力が求められる。そして対応を迫られる。この流れを繰り返しています。であれば、最小限の努力で効率よく、要領よく大きな成果を得ようとするのも理にかなっていると言えます。本当に生きづらい世の中になったと感じます。先ほどあげた様々な能力・スキルは生きるうえで必要不可欠なものであるのは、明白なことだと思いますが、しかし、時代によって、簡単に変わってしまう力に頼り切るのは得策ではないと思っています。大切なことは、能力ではなく激しい変化のなかでも、自分の信念や理想を強く持ち続けることです。では、どこにその信念を置けば良いのでしょうか。

それは、「何のために生きるのか・学ぶのか」ということです。お金・名誉・社会貢献、どの道に生きるのも素晴らしい目的だと思います。しかし人が生きる目的の本質、信念は「幸せ」になるということにあるのではないのでしょうか。幸せを感じる瞬間はどんな時かを考えてみてください。それは、大学・専門学校・入社試験に合格した時、おいしいものを食べた時など、その時には気づかないことでも、振り返ってみると「幸せ」な瞬間が身近にあると気づくことができます。

ここで問いたいのは、果たして、幸福を得るために「能力・スキル」なのかと いうことです。本当に大切なのは、的確に「振り返る」ことなのではないのでしょうか。どんなに役に立つ力を身につけたとして、その成長を、変化を自分自身が正確に捉えることができなければ、能力を活かすことはできません。

さて、みなさんは高校生活を振り返り、今の自分を受け入れることができますか。学校行事・部活動・入試・友人関係・・・、果たして後悔しない青春の日々を過ごせたでしょうか。幸せな日々だったと振り返ることができるでしょうか。おそらく、失敗や挫折を味わったと思います。しかし、みなさんは高校生活の辛いことや大変なことを乗り越えて何事にも代え難い経験をして、大きな成長を遂げました。予期せぬ事態を乗り越えた自分をしっかりと認めることも忘れないでください。

今の若い人たちは、授業・部活動・塾・習い事・バイトと忙しさに追われて、自己の行動を振り返る時間、立ち止まって自分のことを考える「余白」の時間が失われている気がします。しかし、初めて成長に気づくのは「振り返った時」です。」同時に多くの課題と反省も出てきますが、次の成長につながる大切なものです。自分の信念をなくさないためにも、自己の行動を振り返る時間、立ち止まって自分のことを考える「余白」の時間を大事にしましょう。

また、どんなことがあってもみなさんの味方になり、そばで支えてくれた保護者への感謝、受け取ったたくさんの愛情を振り返って、想いを伝えることも大切です。時に自分にとって、甘く楽な方を選ぶことがあっても、いいと思います。その度に、これまでを振り返りながら、良いことも悪いことも、理想に向かうための力にして 突き進んでください。

大切なことは、振り返ることです。

幸せのために 生きるとはどんなことか問い続け、その本質をなくさず、忘れずにいてほしいと思います。Good Luck!

みなさんの「幸せ」を願っています。これをもちまし式辞とさせていただきます。ありがとうございました。

校長 井澤 克仁